

鳥取西高近畿同窓会報

第 10 号

2018 年 4 月 1 日発行

発行：鳥取西高近畿同窓会

発行責任者：米澤道隆（西高 39 年）

編集責任者：山内紀嗣（西高 43 年）



第五十四回総会 開催!

第五十四回近畿同窓会が遠路母校より山本校長、蔵多総務部長（西高五一年）、同窓会より小谷会長（同四七年）、そして県の関係機関から関西本部田村チーフ長（同五六年）をお迎えし、平成二十九年六月二十五日（日）大阪キャッスルホテルにて総勢六十二名参加のもと賑やかに開催されました。

特に今回も九十七歳を迎えられる一中卒の大先輩が家族の付き添いで出席され、近畿同窓会への強い思いを感じて総会となりました。

まずご来賓の皆様からお祝いの言葉をいただきましたが、中でも山本校長から、平成二十六年から開始した校舎の耐震改修工事今年三月で一旦終了し、四月から新しくなった校舎で生活が始まったとの説明がありました。

総会の部では、米澤道隆会長（同三九年）から、「久松山下の青春と伝統」をテーマとする寄稿集が、昨年の創刊号に続き今年第二号を発行でき、皆様方のご協力に感謝申し上げます。又、来年は近畿同窓会第五十五回となる節目の年でもあり、さらなる発展を図るべくご協力をお願いしたいとの挨拶がありました。引き続き事務局より、平成二十八年年度決算報告と小谷監査（同四三年）から会計監査報告、平成二十九年年度予算案及び役員改選についての提案を行い、満場一致で承認されました。

待望の懇親会の部は、植村副会長（同三四年）による乾杯の音頭でスタート。アトラクションでは今年も西高四十二年、四十三年を中心とする「にわかバンド」の演奏があり、特に唱歌「故郷」を全員で大合唱する頃には会場の盛り上がりは最高潮に達しました。

いつもながら名残が尽きない中、フィナーレでは例年の如く一中、高女、西高の校歌を安田裕美さん（同四三年）によるピアノの生伴奏により高らかに歌い、田中副会長（一中十九年）の中締めで約三時間に及んだ懇親会も無事閉会となりました。

近畿同窓会事務局長 村江信幸（西高四十三年）

第54回鳥取西高近畿同窓会出席者 (卒業年次順、敬称略)

来賓：山本英樹、蔵多敏夫、小谷文夫、田村隆志

一中：川口重義、田中 勲

高女：山根立乃、浜本英子、福田幸子、福山茜子

西高：西原章恵、村山龍夫、武田彰正、中嶋照夫、樋上佐恵子、米田登美子、奥谷祐一郎、佐々木清臣、田井 勇、植村京子、佐伯 宏志、中原悠司、米村博昌、清末直行、高野彰允、井上 昌、米澤道隆、頼政恵美子、石塚敏子、岩永建夫、大江 徹、田口 徹、竹内 亨、松田哲治、南 重子、江阪詩朗、片山寿恵、久保美知子、小谷繁昭、谷口正夫、中村彰夫、本家公一、水谷陽子、村江信幸、安田裕美、山内紀嗣、山本雅章、庄田英一、松岡孝道、吉村鉄太郎、窪田邦倫、松尾三紀子、山田陽子、佐藤 取、尾崎充典、松本麻希年、山根滋利、米澤 誠、谷村悠介、浦川ひかり、富谷俊樹、付添家族 1 名 合計 62 名



第55回 鳥取西高近畿同窓会のお知らせ

期 日： 平成 30 年 6 月 24 日（日） 11:00 ～ 15:30

受付は 10:30 より

会 場： 大阪キャッスルホテル 6 階
大阪市中央区天満橋京町 1-1

Tel 06-6942-2401

①総会：11:00 ②懇親会：12:00 ～ 15:30

会 費： ￥7,000 〈会場にご持参下さい〉

（29 歳以下の会員は 5,000 円）

恒例の長寿（満 80 歳）のお祝いをします

夢をかなえた観光

ボランティアガイド

森井 捷子（西高三六年）

私は子供の頃から歴史が好きで、見たがり、知りたがり、聞きたがり、で神話や伝説などの本をよく読んでいました。小学校の修学旅行で京都と奈良へ行った時のガイドさんの案内に引き込まれ「私もガイドさんになりたい」と憧れました。

六五歳の時にチャンスが訪れました。和泉市の広報誌の「観光ボランティアガイド養成講座募集」の記事が目にとまり直ぐ応募しました。十ヶ月の研修中、いかに自分が和泉市のことに無知であつたかと思ひ知らされ、必死に勉強し無事に修了証を頂きました。即、和泉市観光ボランティアクラブに入会し、ガイドのスタートを切りました。



池上曾根遺跡の弥生時代の復元建物

我が市は高低差八六〇㍎、面積八五平方㍎、人口一八・六万人の町です。自然環境に恵まれ絶滅危惧種が自生。氷河期の約二万年前にこの地に人類が残した足跡。弥生時代の登呂遺跡の規模を超える池上曾根遺跡や多くの古墳。

古墳時代の須恵器



奈良・京都には及びませんが、由緒ある神社仏閣。上皇・貴族が熊野詣で通った

熊野街道。今も残っている武家屋敷跡。古墳時代には日本の陶器生産のルーツとなった須恵器の窯が和泉丘陵に林立していました。その燃料のため森は約百年で滅びた。そのため、今で言う産業の発展と環境との調和の歴史のルーツとなったのです。

近代産業百社を超える企業団地と府立産業技術研究所があり、最近では大型ショッピングセンターとホテルルートイン和泉が誘致され、関西で二番目のコストコ（会員制倉庫型卸売店）が開店し、新しい景観が生まれました。移転してきた桃山学院大学の傍らにある久保惣美術館は土地・建物をまるごと民間から市民に寄贈されたもので、発展し続ける和泉市はボランティア活動が活発なことでも知られています。

これらを総称して「とかいなか（都会・田舎）」と呼んでいます。こんな我が町、和泉市を誇りに思いながら自分らしく、ご案内しています。始めてから十年が経ちました。気力・体力・知力を養いながらも少し頑張ってみようと思っています。

私のガイドのルーツは、西高入学間もない頃、クラスメイトと「お互いを知らう」と開いたクラス会。鳥取市が誇る鳥取砂丘をいかにガイドらしく装ってガイドしたのを思い出します。

三七会同窓会活動について

関西三七会代表幹事

森下 健男（西高三七年）

西高昭和三七（一九六二）年卒業生の集まりです。普通科九組、家庭科（五〇名）総計四六〇余名、転校生（一〇名弱）で構成しています。現在、物故者六〇余名、存命者四〇〇名です。各学年共、卒業後二〇年目に最初の同窓会を開催されていると思います。三七会も一九八二年に開催しました。その後も五年毎に鳥取で欠かさず、全体の同窓会を開催しています。

そして昨年、二〇一七年五月三〇日にホテルモナーク鳥取で、一〇九名が集い卒業五五年同窓会を開催しました。翌日は五〇名ほどで西高の新校舎を見学し、音楽の授業を参観しました。その後、二班に分かれ、山陰ジオパーク砂の美術館あるいは智頭町森林浴コースを楽しみ、夜はまた合流し鳥取ゴルフ場レストラン（鳥取砂丘）を借り切り、小谷慧君のスチールギター生演奏をバックにダンス、歓談しました。三日目は希望者によるゴルフコンペ（約二〇名参加）で締めくくりました。

また、二〇年の同窓会を機にその年の一二月に関東で同窓会を立ち上げたようです。これが「関東三七会」の始まりです。関東三七会（会長 木村俊二君）は毎年二月第一土曜日を開催日として欠かさず集まっています。関東の様子を聞き、関西でも集まろうと有志が相談して一九八八年二月に「関西三七会」を立ち上げ、第一回を



鳥取西高三七会同窓会

平成29年5月30日 於 ホテルモナーク鳥取

開催しました。その後二〇回ほど続いています。山陽では故松浦毅君が広島・岡山を主に「山陽三七会」を立ち上げました。関西三七会では遠くから来てくれる人も楽しめるようにと、最近では一泊して、京都貴船川床料理・木津川下り、六甲山百万ドルの夜景、岸和田ダンジリ祭り見物、山陽三七会では宮島紅葉狩り、三好鰯飼等で各三七会の交流を図っています。各会共三〇名程集まります。

これほど同窓会活動を続けていけるのは鳥取に世話役として西尾公孝君がいるおかげです。会員には西高同窓会本部元会長児嶋祥悟君（鳥取ガス元社長）・同副会長西尾公孝君（三七会幹事長）・東京鳥城会元

会長篠田伸夫君（元岐阜県副知事）・鳥取市元副市長石谷雅文君・智頭町長寺谷誠一郎君・リンガーハット社長米濱和英君等がおられ、各分野で活躍しています。また、二〇一〇年からは全体有志で、バス一台2泊3日の修学旅行も行っています。道東の旅に始まり、湯布院・長崎くんち、高野山・熊野古道、上高地・新穂高温泉、おわら風の盆・白川郷、道後温泉・高知と続き、今年は十津川温泉（谷瀬の吊り橋）・明日香観光旅行を計画中。

同窓会での話題は主に本人の近況のようです。家族（連れ合いや子供）の話は少ないようです。あるいはこれが参加者の長続きする秘訣かもしれません。

故郷と大阪



宮脇廣子（西高四一年）

故郷鳥取市松上河内のこと

江戸時代、鳥取藩に仕えた岡本家の一族には、お咄（はな）し衆を勤められた方、智頭の駒島の山奉行をされていた人などがおられます。その岡本家より、明治時代に松上河内に嫁いでこられたのが祖父の母になります。

天正年間に山名一族の人達が鳥取城を退去し、鹿野城で破れ、山を越え、松上河内に逃れてきたのでしょう。自然石を用いた祖先の顕彰碑はとびとびにわかる文字と「天正一五年」（一五八七年）と

の記述しか読み取れなくなっています。

鹿野城の武者の魂をなぐさめる踊りは、松上河内にも伝わっています。昔、お寺でお盆の夜、青年団の踊り上手の皆さんが、古老の地唄に合わせて、鹿野の花笠の小気味よい鈴の音の「しゃんしゃん」と赤い襷（たすき）の勇壮に翻（ひる）がえ—る中、手踊りの手捌きのあでやかに、薄明かりの下、演目ごとに踊り分けられ、村人達は遅くまで見入ったものでした。

大阪の寓居



大阪での住居は都島区の蕪村生誕地にほど近く、花木を植えております。

椿の「東方朔」は大きめの数弁の花弁を浅く重ね、見込みの深く、冷めたピンクの冴え色に伏せがちに咲きます。

高さ5メートルのオリーブはたくさん緑の葉を繁らせ、小さい黄色い花をひっきりなしに地面に降りつもらせながら実をつけます。節分の一、番寒い頃にメジロがやってきて、この葉隠れにさやさやとか細い耳障りの良いうたをさえずります。

おうちは鳥取に居た時分には、砂丘入り口の谷中に数十本もありました。こちら大阪中之島のおうち橋のたもとの大木の種を拾い、まいたところ、香りの良い花を咲かせ、秋にはさながら北斗七星のような実になります。

ねむの花の香りがあたりに充ちる頃、粋な緑の縞のシジュウカラが何処からかやってきて、しばらくあちこちと飛び交い、飽きた頃には去っていつてしまいま

す。

夜の闇が漆黒となった十月。南の空のオリオンが更に傾き、もくせいの香りが漂う頃には、柿が食べられるようになり、秋雨前線がやってきます。



東方朔の花

無芸、無趣味の私のはまった

ウクレレとハワイアンバンド

山本幸正（西高四四年）



二〇一一年に定年退職し、ほぼ一年間悠々自適の暮らしを送っていました。時間の余裕もでき、第二の人生を送るにあたり、何か楽しめるものがないかなあと考えていました。

そんな時、ディズニー映画で有名な「星に願いを」をウクレレ演奏で聞きました。ギターとも違うアコースティックで何とも言えない癒し音に心をひかれ、是非この楽器を弾いてみたいと思うようになりました。そんなわけで、最初は我流で入門書を参考にコードを覚えながら練習をしていましたが、しつくりいきません。そこで初心者を対象にしたスクールに幾つか通ってみました。レッスン内容にもなじみず長続きしませんでした。

そのような中、ハワイアンバンドの存在を知り、練習を見学させて頂きました。そこで又、ハワイアン特有のスティールギターの音色に魅了され、ますます魅かれていき、練習への参加の了解を得、半年後にバンドの一員としての「カイマナヒラ」を歌う事ができました。

現在、結成十年、毎週土曜日、約三時間、次のステージの曲目を和気あいあいと楽しんでいます。

また、バンドの代表の方が地域のボランティア活動に積極的で、その一環として老人介護施設を中心に演奏活動を行っています。演奏時間は約一時間。トークと時々フラダンスも交え、一五—一七曲、季節も考慮し楽曲を準備します。会場の方々と一緒に唄い笑い、次も又と言われる事が一番嬉しい時です。

ちなみに、我がバンド名は「バーム・アイランダーズ」です。メンバーはスティールギター（八三歳）、ギター（七四歳）、ウクレレ（七八歳）、パーカッション（七六歳）、私（六六歳）。いずれも大先輩ばかりです。レパートリーも幅広く、ハワイアンは無論、カントリーから童謡、唱歌まで約三〇〇曲あるようです。

今後も今のメンバーで精力的に続けていくつもりです。



会員の近況

(昨年の返信葉書通信欄より)



井上浩(西高二五年) 昨年は三回も入院を繰り返し、辛い一年でした。

中嶋照夫(西高二六年) いまのところ元気で吹田市豊津で診療をしています。八四歳になり少々スピードが落ちてきた感じがしますが、精神診療は時間がかかりますので頑張っています。

西村永二(西高二七年) 七〇歳頃から心がけてきました健康作り(ラジオ体操、三千歩散歩、七〇kgを維持するための食事)のおかげか歳相応に元気です。

赤松小乃江(西高三一年) 今年は八〇歳を迎えますが、週三回のプールに通い、泳いでいます。

松本七子(西高三一年) 脚が悪くなって歩行に難渋しています。

井上昌(西高三八年) 元気にやっています。自宅庭で家庭庭園を始めました。キュウリ、ナス、ゴーヤ、トマトで一杯やると最高です。

日比建次(西高四〇年) 古稀を迎えましたが、仕事に興味に最近最近庭いじりも加わり、相応に動き回っています。

米村広之(西高四〇年) 緑内障を患っており、断酒中です。

石田正純(西高四一年) 少し体力が低下していますが、八〇歳まで頑張るつもりです。色々な人との出合いを楽しんでいます。今、京都宇治文科大学で講座を受け、今年は観光学を受講します。

松田哲治(西高四二年) 大手総合商社常勤の傍ら、終末は家庭菜園とゴルフを楽しんでおります。

石田誠(西高四三年) 九五歳の母と二歳半の孫の相手で毎日過ごしています。趣味のギター演奏も続けています。

小谷博子(西高四三年) 学生時代には縁のなかった登山にはまっています。低山ですが。

土岐久美子(西高四三年) 加計学園の獣医学部の学舎は我が家のすぐ南側の高台に建設中。

庄田英一(西高四四年) 昨年定年退職。自宅空地を利用し、近所の人と無人青空野菜市場を開設。米、野菜、果樹栽培に専念しています。

佐藤収(西高四八年) 警備会社の大阪支店長として昨年より着任しております。

浅川滋男(西高五〇年) 西高の地理の先生より電話があり、カンボジアのトンレサップ湖に小学校を造るプロジェクトを指導することになりました。

川上浩一(西高五〇年) 定年を迎えましたが鳥取で働いています。

田村隆志(西高五六年) 四月の人事異動で関西本部へやってきました。

鳥取城跡と西高校舎



平成二九年度年会費、協力者

(卒業年次順 敬称略)

川口重義、山中孔、田中勲、福富照代、山根立乃、宮崎英子、吉村芳野、浜本英子、福田幸子、福山禹子、井上浩、高野泰明、村山龍夫、近藤春樹、西原章恵、武田彰正、伏野義夫、樋上佐恵子、中嶋照夫、米田登美子、森西良俊、前屋舖洋子、櫻井典彦、奥谷祐一郎、村田雪江、佐々木昌平、澁谷須万子、山本義憲、佐々木清臣、山根啓作、榊井敦夫、松永澄子、赤松小乃江、田口邦子、松本七子、田井勇、加嶋敬、草野榮子、大倉幸典、田中正寿、下村玲子、北温恵、田中昶、田中慶子、佐々木由紀子、植村京子、佐伯宏志、中原悠司、米村博昌、石本武志、曾根崎崇臣、村尾領彦、大塚元彦、清水直行、高野彰允、花房辰雄、森井捷子、東中文江、山田忠尚、市川渥史、谷口睦子、木島正則、井上昌、山本勝三、米澤道隆、津田清正、加藤孝幸、宮下真澄、川上義美、頼政恵美子、寺谷英一郎、宇都宮栄子、上地和子、徳田稔、森田暎、石塚敏子、岩永建夫、大江徹、山口徹竹内亨、松田哲治、南重子、吉田章、安宅寿昭、得田ヨウコ、西土井千賀子、船本俊博、石田誠、矢野一江、土岐久美子、小谷博子、江阪詩朗、片山寿恵、久保美知子、小谷繁昭、谷口正夫、中村彰夫、本家公一、水谷陽子、村江信幸、安田裕美、山内紀嗣、山本雅章、庄田英一、助飛羅力、松岡孝道、吉村鉄太郎、窪田邦倫、松尾三紀子、山田陽子、酒澤一嘉、佐々木忠司、坂岡隆司、佐藤収、澤美和子、松島純子、高田憲一、由谷ひろみ、佐々木映子、岩井順一、尾崎充典、松本麻希年、向井裕子、山根滋利、米澤誠、篠村徹太郎、上田浩、清水正俊、弓削由佳、勝見武、谷村悠介、窪田果恵、浦川ひかり、富谷俊樹 (合計一三四名)

平成28年度西高近畿同窓会 会計報告

(平成28年1月1日～12月31日)

(単位:円)

収入の項	金額	支出の項	金額
前年度繰越	996,079	通信・交通費	77,423
年会費収入	297,000	印刷費	130,086
総会費収入	401,000	総会費	428,154
雑収入	89	事務局費	20,198
		雑費ほか	2,519
		次年度繰越	1,035,788
合計	1,694,168	合計	1,694,168



お悔やみ

淀井義壯治さん(二一五一年)、山中孔さん(二一七一年)、山根立乃さん(高女二二年)、黒田昌秀さん(西高二七年)、小谷尚三さん(西高三六年)、杉立裕文さん(西高四一年)

謹んでご冥福をお祈りいたします。
(連絡頂いた方のみ)

(事務局連絡先)

〒631-0803

奈良市山陵町二三八一

サンプラザ208

村江信幸 宛

携帯番号 090-3465-7203